



第132号

平成26年3月1日発行
発行所
長崎大学玉園同窓会
〒850-0029
長崎市八百屋町36番地
☎095-824-5494
発行人
小川 天
小川 昭
(株)昭和堂

教育の今日的課題に思う

東彼杵町教育長 今道 大祐



学生時代

「鶴の港・わが母校・長崎大
学」時代の思い出は格別なもの
あり語り尽くせない。

限りなく優しく、純粹であった
学生時代、教育と人生への強い思
いを語り合ったあの頃、ドイツの
文豪ゲーテの「大切なことは、大
志をいだきそしてそれを成し遂げ
る技能と忍耐を持つことである。
その他はいづれも重要でない」を
座右の銘として、それぞれの年代
での夢や希望そして憧れや志を持
ち、よく生きることモットーに
歩んできた。

四十数年間という時の流れは並

大抵ではなかったように思うが、
世の中はそれほど不公平ではな
かったという感慨も湧いてくる。

魅力ある教師

無限の深さと広さを持つ教育、
無限の差異と可能性を持つ児童生
徒、無限に進歩発展する現代社会
である。また、とてつもなく大き
な現実を直視して、自分の力のな
さを痛感するとともに、教育者と
してどうすればいいのか、どうす
べきなのかを考えさせられる日々
でもあった。

又、教育行政、教職員、児童生
徒、家庭や地域、教育と産業等々
における問題の発生と不安の脅威
に落着かない日々でもある。

いづれにしても、真実一路、研
究一路の共同体制で、現実には児童
生徒のもつ問題を、どんな小さな
ことでも解決していこうとする意

欲、教育愛に燃えることではない
だろうか。

お互いに欠点をもつ人間、それ
ゆえに魅力を感じる仲間同志が、
精一杯の善意と努力、謙虚さと深
い反省、労り合う気持ちを持つこ
とによって、静かにして楽しい仕
事場を作り出すことができるもの
と信じる。

戦後教育の民主化の中で、

- ①子供中心であること
- ②教授の科学性
- ③地域社会を考えること

この三本柱が強調された影響か
らか、子供にとって魅力ある教師
とは、・子供中心である ・能力
実力がある ・人格・人柄がよい
・教養がある ・面白いこととい
われている。

教師の魅力の要素はそれぞれの
出来栄であればよい。必要なこ
とは、現在の自分の力をより向上
させようとする努力、教師力向上
への苦心の姿こそが、児童生徒に
とっては魅力となるのではないだ
ろうか。

使命感と道徳律

使命感・判断・決断・道徳性・
寛容等々いろいろ要素が人間と
して考えられるが、今日的な課題
から、次の二点を大切にしたい。
使命感の再認識と道徳律の確立
である。「世には学者は多いが、
真に子弟の指導者たり得る人は得

難い」と、地位や立場が人間を形
成する一面はあるが、一旦獲得す
ると、人間的修業や成長に向けて
努力をしなくなる一面もある。

読書も研究も全てに努力しない
人間になってしまったら大へんな
ことである。

教職生活を振り返って使命感の
再認識と道徳律の確立が非常に重
要ではないかと思う日々である。

カントは「星空はわが頭上に、
道徳律は我が内に」といっている。
教育者とは、学校や地域に道を
作る存在であると思う。人の道、
児童生徒の歩む道を確立するため
にも、まず自らの道を確立しなけ
ればならないと強く思う。

教育の原点

福井県の永平寺町の小・中学校
を視察する機会があった。

全国学力調査では優秀な成績を
収めている県である。

視察した中学校の校訓は「礼の
心」、全学年の級訓は「語勢」で、
三十年間継続しているようだ。

実践内容は、校門の礼、感謝を
込めた無言の給食、無言の清掃(師
弟同行)、家庭学習二時間以上等々
であった。

「礼の教え」が、学校や地域の
人々の誇りとなり脈々と受け継が
れている空気に触れることができ、
「教育の原点とは何か」というこ
とを痛感させられた視察であった。

主題

人間関係を大切にしたい教育

解説

各学校においては、地域の特性を生かし、児童・生徒の実態をふまえて、生きる力の育成を目指した特色ある教育課程を編成し、その具現化に向けて取り組んでいるところです。

一本同窓会においても、総則に謳われている、児童・生徒同士の人間関係、更には児童生徒と教師の人間関係の醸成に視点を当て、標記主題を掲げ、研修に取り組んでいるところです。

しかし、ご承知のとおり、七月、県内の女子児童が自殺をするという不幸なことが起こってしまいました。そこには、わたしたちが最大の教育課題として取り組んでいる「いじめ」の問題が関係しているということです。また、八月には、県内の高等学校で、教師と生徒がかかわった暴力事件も起こっています。

教育関係者よりも、多くの方々に大きな衝撃を与えました。わたしたちは今さらながらこの問題を真摯に受け止め、日々の教育活動を反省し、もつと児童・生徒に寄り添った教育活動の展開が求められています。

標記主題に掲げた「人間関係を大切にしたい教育」が最も今日的な主題であることを再認識し、その具現化に向けた取り組みこそが、今のわたしたちに課せられた重要課題であるかと考えます。

そこで「一三三号」においても、引き続き「人間関係を大切にしたい教育」の在り方について研修を重ね深めていきたいと考えました。

自分を愛するように人を愛する

聖マリア学院小中学校長 中村 洋



長崎市北部に原爆の痛々しい焼け跡がまだ残っていた昭和二十七年、アメリカからアウグスチノ修道会の神父様方が来日し、教会建設と教育事業に取りかかり聖マリア学院が誕生した。「自分を愛するように、人を愛する」が「建学の精神」で創立五十八年になる。日本で最初の児童生徒がカトリック信徒一〇〇%の学校だったが、今は、宗教にかかわらず本学院の教育を求めて入学してくる児童が多い。

目指す子ども像の一つに「祈る子」を掲げて、「寛容と感謝」の心を大切に育てている。「祈り」は、登校時の教会への一礼から始まり、学校生活の節目で心静かに祈りする。校内には「廊下は静かに 走らない」等の生活指導上の禁止語句の掲示はないし、集会の待機時にもおしゃ

べりしないで」といった教師の威圧的な制止なども必要としない。これは教師間の暗黙の了解で、一人一人の子どもが周りの人の存在を意識し、互いに迷惑をかけない、相手を気遣うといった思いやりの心を育てる指導からである。宗教に関わることなく人間として「寛容と感謝」の気持ちを育むことは教育の原点にはかならない。

子ども像の二つ目が「学ぶ子」で、特に表現力を伸ばしている。学習中に、聖マリアの子どもらしさを感じることがある。

体育教師で部活指導中に頭部を損傷して手足の自由を失い、筆を口にくわえて詩や絵をかくようになった星野富弘氏の詩画集を、全校朝会で題材とした時のことである。言葉から筆者はどのようなことを「神様へ願う」のかを想像豊かに考えさせる授業形態にした。簡単に一行毎の言葉と子どものイメージ(意見)を紹介する。一行目「神様がたった一度だけ」「運動したい。歩きたい。…」と体を動かす願望を発表。二行目「この腕を動かして下さるとしたら」と「腕」が付け加わることで、「鉄

棒をする・自分で食べる：」とより具体的な動きを発表。そのようなか、五年生の子どもが「子どもを抱きしめる」と全く異なった視点から発言した。筆者が教師だったので、教師と生徒との関わりを感じ取り「腕が動いたら子どもを抱きしめたい」の発言になったのだらう。教師と子どもとの心の温かい関係を自分のことのようにつなげたようだ。この発言には私も心打たれ「他者との関わりを大切にす本学院の子どもらしさ」と嬉しく思った。以下、三行目「母の肩をたたかせてもらおう」以下は、省略。

子ども像の三つ目が、「助け合う子」。本校の子どもたちはとても仲良しで、学年にとらわれることなく普段の生活の中で触れ合う。しかし、市内全域からの通学児が多く、公立校が持つ地域での仲間意識が薄くなるのは否めない。その分を学校内で補填するためにも校内での諸活動が重要になり、縦割りの生産活動・奉仕活動などの教科外活動、併設する幼稚園・保育園、高齢者グループ、外国からの訪問者との交流と多岐にわたる来校者への挨拶・明るい受け答えは自慢できる。

人間関係は互いに触れ合うことで好ましく醸成され、更に自由な発言と相手の思いを真剣に聞き取られて分かち合うことで築かれる。

ただし根底は、指導する教師がしっかりと子どもと目を合わせ、笑顔で子どもを心を受け止めることから始まる。本校が目指す「自分を愛するように 人を愛する」の願いである。

人間関係を大切にしたい私学教育

純心中学校・純心女子高等学校副校長 大町 謙治



平成二十三年三月に公立中学校を定年退職し、その四月から縁あって、純心中学校・純心女子高等学校に二年間事務長として、平成二十五年四月からは副校長として勤務させてもらっている。

朝は神への讚美・聖歌に始まり、昼には午前中の生活への感謝と反省、午後からの生活の指針とすべく聖書のことばが読まれる。さらには、食前食後に恵みを与えてくださった神や先祖の方、社会の御恩に感謝の祈りを捧げる。一日が祈りに始まり祈りで終わる、カトリシズムの精神に基づく女子教育を目的に設立された学校つまり、カトリシズムの精神、つまり、純心精神とは、江角ヤス初代学園

とから始まる。本校が目指す「自分を愛するように 人を愛する」の願いである。

長が繰り返し諭された、人を喜ばせ、神様を喜ばせる人になるために、「まず孝行 マリアさま いやなことは私がよるこんで」(学園標語)を実行する祈りと奉仕の精神である。聖母マリアを理想とし、聖母の五つの徳、愛徳・純潔・謙遜・柔和・従順を体得し、清く・賢く・優しい女性となれるよう、豊かな人間性を育み、人と世界に奉仕できる、社会の良心となる女性が増えることを願って教育している学校である。

その教育の一端を紹介すると、「美しさは身なりから」という目標がある。それは、清く・賢く・優しい女性の一步は決められた制服を、きちんと美しく着こなすことから始まるということである。制服から規律・教養・マナー等がしっかりと学び、身だしなみは心の表れであると教育している。純心生の登下校の清純な姿から純心教育に対する高い評価をいただいている。

また、「錬成会」という労作教育プログラムがある。奉仕の精神を育成する勤労体験学習である。年一回、クラスごとに純心女子学園所有地である三ツ山のセミナーハウス「聖ヨゼフの家」に一泊し、そこでの共同生活・老人ホームでの奉仕活動・畑での労作活動をとおして、奉仕と勤労のよろこびを体験するとともに、心と体を鍛えている。

さらには、本校創立八十周年記念事業の一環として建築した五階建て校舎のオープンスペースで、早朝・昼休み・放課後と教科に係わる質問や進学相談、また、生徒同士による作業等、教師と共にいるいは生徒同士が頭を突っ込んで話し込んだり説明を聞いたりしている。その光景は、正に「こたつ方式」の教育である。そこには、教師の温もりを感じ、教師への信頼と同時に生徒同士のコミュニケーションから信頼関係が築かれる。

集団教育の場である学校では、話し合う・通じ合う・学び合う・助け合う・信じ合う等々「合う」ことを学び、成長していく。「人は人を浴びて人となる」という言葉を大先輩から教えていただいたことが、そのとおりである。これらのことを基本において教育を考えると、学校は、学習者としての子どもを育ててはいないか。また、

揭示板教育



県立上五島高等学校長 草野俊晴

上五島高校の正門入ってすぐの所に、第五十回生の卒業記念としていただいた、少し大きめのガラスケースが立っています。校長が、生徒への想いを語る揭示板です。現在三四一号が揭示してあります。平成十六年度に第二〇代校長から始まり、現在十年目となります。月に二回のペースを目安に書き換えています。

人は生まれながらにして不平等である。環境を同じにしただけではさらにその差が広がるだけである。昨今のいじめ・暴力の有り様を見るに、学校現場がかかえる課題が、また、そのしわよせが今きているのではないかと、そう思えてならない。

純心中学校・純心女子高等学校には、よく卒業生が学校を訪問してくる。校舎見学や聖堂を感慨深

げに見たり、元担任であった教師に懐かしき時代の思い出話や近況報告・悩み事の相談等内容は様々である。諸先輩の教育力はさることながら、純心女子学園のカトリシズムの精神に、そのすばらしい魅力に惹かれてくるのであろう。それは、建学の精神に沿った人間関係を大切にした教育をこの学園が実践している証であると強く思う。

この揭示板は、生徒のみならず、職員・保護者・地域の方々にも触れ、ホームページにも掲載しています。あまり長くないフレーズで、的を射たインパクトのある心に染みるものを書こうと考えるのですが、気負えば気負うほど納得できるようなものがなかなか思いつかびません。最後は、背伸びしてもなかなか続かないと自分に言い聞かせ、四月十六日に記念の第一号(通算三二七号)を揭示しました。内容は、

「残心ある挨拶で日本一」
「こころある掃除で日本一」

です。

挨拶は、残心のある挨拶をするように、いろいろな機会を捉えて、いつも生徒たちに話をしていきます。残心とは、剣道用語で心を残すと言います。剣道では、いくら打突がしっかりといても、残心がなければ一本になりません。わかややすく言うと、打突後も相手と気持ち繋がついていなければ一本になりません。相手の目を見て挨拶をし、挨拶の後も相手の目を見つかり見て初めて挨拶が成り立つものと思っていますので、繰り返しそのようなことを言っています。

最近では残念なことに、顔も見ないで挨拶をし、誰に挨拶をしているのかわからないような場面を、お店などでよく目の当たりにします。生徒たちには、心のこもった挨拶ができるようになってほしいと思っています。

何と言っても、一日のスタートは挨拶です。これが、私たちのやる気・元気の源です。自分からする。されたら、きちんと返す。お互いに挨拶をして、気持ちよく仕事ができる環境作りを努めましょうと職員にも話をしていきます。

掃除については、職員に師弟同行での清掃をお願いしています。高校生であっても、掃除の仕方がよくわかっているとは限りません。掃除時間は、生徒と職員との絶好のコミュニケーションの機会

でもありません。掃除の仕方を教えつつ、師弟同行で掃除をしながら、信頼関係をこつこつと築いていってほしいと思っています。

掃除を通して「よく気のつく人」を育てていきたいと思っています。

この二点については、毎回揭示板の下側に、「残心ある挨拶」「全校掃除一色」というキャッチフレーズで必ず記載するようにしています。

もう一つ、生徒たちに、たびたび話をしていくことがあります。

それは、「積極的に学校行事や生徒会行事、学級活動や部活動に取り組んでほしい」ということです。あれは嫌これは嫌ではなく、何でも経験させたいと思っています。やってみて初めてわかることが人生にはたくさんあります。いろいろな経験をjして、人間としての幅を広げていってほしいという想いを持っています。いろいろな経験は相手の立場に立つて物事を考える力を養い、思いやりの気持ちを育てることに繋がるのではないかと考えています。

最後に、揭示板で生徒に語りかけることによって、一人でも多くの生徒たちが、内面から自らを顧み、挨拶や掃除のしつかりできる、思いやりのある、よく気がつく人になってほしいと願いながら、毎日を過ごしています。

特別支援教育

特別な支援を必要とする子どもがいる教育の充実

長崎県立鶴南特別支援学校長 池田 英俊



平成十九年四月一日の学校教育法等の改正により特別支援教育が推進する中、平成二十四年八月に中央教育審議会から「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」が出された。インクルーシブ教育とは障害者の権利に関する条約第二十四条によれば、「障害のあるものとなないものが共に学ぶ仕組み、障害のある者が排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な『合理的配慮』が提供されること等」とされている。同報告ではインクルーシブ教育システムではインクルーシブ教育を着実に構築するには特別支援教育を必要と進めていく必要があるとし、さらにはインクルーシブ教育の効果として「特別支援教育を推進して

くことは、子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導を行うものであり、（中略）障害がある子どもにも、障害があることが周囲から認識されていないものの学習上又は生活上の困難のある子どもにも、更には全ての子どもにとつて良い効果をもたらすことができると考えられる。」と述べている。

このことから、特別支援教育は、「発達障害等のある子どもを含めた特別な支援を必要とする子どもへの教育」から「特別な支援を必要とする子どもへの教育」として考えていかなければならない。

各学校で「特別な支援を必要とする子ども」のいる教育を構築するためには、特別な支援を必要とする子どもに対しての特性等に応じた「特別な配慮」（個への支援）とともに、全ての子どもに対してこれまでの教育の経験の蓄積や学習を基礎にした「ていねいでわかりやすい教育」（包括的な支援）をより一層充実していくことが重要である。

- (1) 包括的な支援
- ・ 良質な学級づくり

- ① アンケートやチェックリスト等で客観的に学級を分析する。子どもと子ども、子どもと教師の関係はどうか。学級全体に必要な知識やスキルはなにか。
 - ② アンケートやチェックリスト等の結果を基にグループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを実施する。
- 基本的スキルの選択**
- ・ できていない子どもの割合が10～20%の基本的スキルで、できている子どもの割合が50～60%の基本的スキルを課題とすること。
 - （そのことで、もうすぐできそうな約30パーセントの子どものスキルを高め、できていない10～20%の子どもの意欲向上へとつなげること）
 - ・ 80%の子どもが達成できそうな基本的スキルを課題とすること。（個への対応を可能にするためにも学級に大きな主流をつくる。）
- (1) わかる授業づくり
 - 一人ひとりの違いに応じたわかる授業を展開するには、子どもの学習のつまづきを「内的要因」（特性）と「外的要因」（指導）の関連として考える。
 - ① 内的要因（特性）
 - ・ 聴覚的認知に課題がある。
 - ・ 視覚的認知に課題がある。
 - ・ 記憶する能力に課題がある。
 - ・ 注意に課題がある。
 - (2) 外的要因（指導）
 - ・ モチベーション（課題）に課題がある。等
 - ② 指導方法に問題はないか。
 - ・ 指導ベースに問題はないか。
 - ・ 教材に問題はないか。
 - ・ 教師の言葉かけは適切か。等
 - ・ 発達障害の子どもだけでなく、多くの子どもにも内的要因に挙げた課題があることを理解した上で、外的要因である指導を工夫したり改善したりすることが望まれる。
 - また、子どもの特性はすぐに改善することは難しいが、指導の工夫、改善はすぐにでもできることであり、一人一人の学びを保証することにもつながる。
- 今回、紙面の関係上、個への支援については詳しく述べることはできなかつたが、全ての学習の基礎・基本となる「読み」「書き」「計算」は徹底して指導する必要がある。個への支援は、特別支援学校で行われている指導方法が参考となる場合が多いので、地域の特別支援学校のセンター的機能を有効に活用していただきたい。（完）

※引用資料
 平成二十五年年度長崎県特別支援教育研究会秋季研修会
 平成二十五年十一月十九日（火）実施
 長崎大学大学院教育学研究科 笹山龍太郎准教授
 「講義」発達障害等のある子どもへの教育の充実」における受講者向け資料

わたしの教育実践

特活部に所属して

横浜市立東俣野小学校 今 泉 統貴子



私は今、横浜市で教員をしています。最初の頃は、よそ者の私が横浜の子どもたちに地域のことを教えあげられるのかとても不安でした。しかし、その様な心配は不要でした。横浜市には、どこにも負けない地域教材がたくさんあります。私の学校の地域は農業が盛んで、野菜作り名人さんが種の植え方から教えてくれます。子どもたちは、名人さんの畑を美味しい野菜がとれる「魔法の畑」と名付け土作りなども教わり、農業の面白さや難しさを体験しました。子どもたちが自分の町の人やものが大好きになる姿を見て、改めて地域の素晴らしさを知ることができました。

また、私は特活部に所属しています。一年目の時、縦割りの活動について提案しました。しかし、それらは一つも採用されることはありませんでした。私の提案は、児童や、先生方の負担、他の学校行事との兼ね合いが考えられていなかっただけです。私はその時改めて学校行事を動かすことの難しさを知りました。他にも、関わる先生とよく連絡を取り合うこと、アドバイスを自分からもらいに行くと、計画的に時間に余裕をもつて進めていくこと、子どもたちの成功体験となるように支援することなどを教わりました。私は今でもなかなか早めに行動できなかつたり提案が無理があつたりと力不足ですが、子どもたちが輝ける場を作る特活の仕事にとっても魅力を感じています。

横浜での教員生活も今年で五年目となりました。この五年間で、様々な学年の担任、校内の業務を経験してきました。その中で、今の自分の指導に一番大きく影響しているのは、三年目に行った特別活動の一齐授業研究の経験です。特別活動というのは、自分が日頃行っているあらゆる指導、学級経営がすべて関係してくるものです。それを学校を代表して発表するということにとっても不安を感じていました。

このように取り組んでいると、自分自身にも子どもたちにも変化が出てきました。初めは不安しかなかったのですが、だんだんと楽しさを感じてきました。子どもたちも活動を通して自主的に動くことが増えたり、それまで関わりがなかった子ども同士も自然と関わったりという姿が見られるようになりました。私はこの経験を通じて二つのことを学びました。一つは、悩んだ時には先輩方に相談することはもちろん、子どもたちとも相談したり、話し合ったりすることです。もう一つは、準備の大切さです。子どもたちの活動を予想し、その予想されるどのパターンにも対応できる準備をすること、そのことが充実した活動につながります。それからは、低学年だろうが高学年だろうが、「子どもと一緒に考える」こと、そして、「子どもたちが必要だと思うこと・ものを考えられる限りすべて用意する」ことを大切にして、毎日の指導を行うようにしています。子どもに寄りそい、いつでも子どもの気持ちや考えていることを第一に考えられる教師になれるよう、これからも努力していきたいです。

子どもに寄りそう教師

横浜市立寺尾小学校 佐野 夏奈子



つながりのある学級づくり

諫早市立真城小学校 井手裕介



私はいつも学級開きの時に、「人には得意なこと、不得意なことがあります。友だちの得意なことだけでなく、苦手なことまで認め合い、高め合える学級にしていこう。」と伝えるようにしています。

人にはそれぞれ得意なこと、苦手なことがあります。それを理解しお互いに助け合っています。それはみなさんの職場にも当てはまることでしょう。そしてそれは、子どもたちが社会に出てからも強く感じることでと思います。

私は、子どもたちが安心して学校生活を送るために、相手の苦手なことまでも認め合い、互いに助け合えることが大切であると思ひ、日々の教育に取り組んでいます。今年度担当している学級でも、日々の学習の中で、「困ったな。どうしよう。」という時には、周りの友だちに助けを求めるように話しています。友だちがなぜ困っ

ているのか理解し、教え合い、励ます姿が多く見られるようになりました。同時に、分らないことやできないことを恥じない雰囲気が高まり、子どもたちが安心して学習に取り組んでいるように思います。

また、今年度、家庭学習の定着をねらい、自主学習ノートづくりを力を入れていきます。しかし、子どもたちの中にはどのように学習を進めていけばいいかわからず悩んでしまう子が出てきます。そこで、定期的にお互いのノートを見合う時間を設けています。その際必ず、「こうしたらもつといいよ。」とアドバイスを書き込むようにしています。その時間を通して、子どもたちは自分の取り組みに自信をもつと同時に、何より友だちの学習やアドバイスを参考にすることができるようになりました。子どもたち同士の言葉のやり取りや支え合おうとするつながりには強い力があるのだと改めて感じる事ができました。

今後は、教師と子どもたちのつながりはもちろんのこと、子どもたち同士のつながりがより強いものとなるように励んでいきたいと思ひます。

幸せなクラスづくり

佐々町立石口小学校 須藤泰平



「今日も幸せだった。」
どの子にも、そういう気持ちで帰りを歩いてほしい、それが私の想いです。そのために学級経営上取り組んでいることを二つ紹介します。

一つはあいさつ日本一を目指しています。子どもたちには、①笑顔で②自分から先に③はきはきとした声で、という観点で指導をしてきました。それが、最近の効果はありました。ですが、最近本を読んでいる、「あいさつとは心を伝える行いです。」という言葉と出会いました。テクニクに偏った自分の指導の拙さを教えられました。心を伝えるあいさつを教えるのならば、お手本を見せるしかないと思ひました。そこで、朝、三つのことを心の中で唱えるようにしました。「感謝。見つめる。ほほえむ。」何度か繰り返します。そうして子どもに出会うと、「あなたに出会

えて今日も幸せだよ。」という気持ちよさをこめたあいさつができるようになってきました。また、お休みした子どもが翌日登校してきた時に、「お帰り。」とあいさつをします。言われた子は嬉しそうな顔をします。あいさつの力の大きさを感じます。

二つ目は帰りの会で、ギターに合わせて歌を歌います。選曲は私があります。昔の曲を選ぶのが私のやり方です。まず、メロディーやリズムが覚えやすい歌が多いです。「空で歌う」というのは楽しく歌うことに欠かせません。また、昔の曲ならお家の人と一緒に歌うことができます。「お風呂で一緒に歌いました。」「最近、カラオケでマイクを離さなくなっています。」というお便りをお家の人からいただいたこともあります。二週に一度、新しい曲を教えます。それも子どもたちの楽しみの一つとなっています。

教師である以上、一番大事にすべきは授業です。「今日の国語は幸せだった」「算数は幸せだった。」と子どもが感じる授業ができるよう、日々研修に励みたいと思ひます。

今の私にできること

長崎市立日吉中学校 濱崎 大輔



知・徳・体の調和のとれた「生きる力」の育成は、学校教育における究極の目標である。

現在、人間関係の希薄化やコミュニケーション能力の不足が社会問題となっている中、「心の教育」はより重要度を増していると考えられる。また、確かな学力と健全な体を支える基盤としても、豊かな心は欠かすことができない。そこで私は、道徳性の育成に重点を置いた指導をこれまで以上に心掛けていく。ただし、教師としてまだまだ未熟な私に、子どもたちの心を豊かにできる高い見識と指導力が備わっているわけもなく、日々、試行錯誤の連続ではあるが、日頃から意識している実践が二つある。

一つ目は、子どもたちの模範であるように常に心掛けることである。自らの日常を振り返り、相手の立

場に立つて思いやりのある言動ができていくか、向上心や目標をもっているか、謙虚な心で日々の生活ができていくかなど、自分自身の道徳性を確認する。教師が子どもたちをより良い生き方へと導く指針であるならば、子どもたちの道徳性を高めるために大切なことは、生涯にわたって教師自身の道徳性を高め続けることだと考える。

二つ目は、ふだんの生活の中にある道徳的課題に対し、子ども自身が考え、判断し、表現する時間を仕組むことである。「道徳の時間」はもちろんであるが、学校生活の中で起こる課題に対しても「なぜだろう。」「どうして、そう考えるのだろうか。」と投げかけ、常に道徳的実践力を高める機会を作る。そうすることで、生きた道徳性を養いたいと考えている。

七年前、教員採用試験に合格した日のことは、今でも鮮明に覚えている。夢にまで見た教師として働くことのできる喜びと使命感を忘れずに、これからも精進してきた。

琴海町の未来

長崎市立琴海中学校 竹田 詳平



現在、三校目の赴任先である長崎市立琴海中学校に勤務しています。本校は旧琴海町唯一の中学校として、地域の大きな期待を担っています。地域の現状として、校区北部の過疎化が著しく、村松地区に人口や商業施設が偏っています。一方で、同地区の琴海ニュータウンも高齢化が課題になっており、町全体で過疎化の一途をたどっています。

私は、学級活動での進路学習や担当する社会科の授業で折に触れて「琴海町の未来」について生徒たちに考えさせています。農業が基幹産業である琴海町は、スイカなどの果実生産が盛んですが、生徒たちが「アピール不足だよね。」と言うように、まだまだ全国的な認知度は高くありません。「どうすれば琴海の特産物をたくさんの人に売ることが出来るかな?」との発問をします。生徒たちは、「フルーツでゆるキャラを作ってみたらいいかもね。」「B-11グランプリにスイーツを出してみよう。」「実際に若者らしいアイデアを思い描きます。」

に入れ、長崎の交通の要所としてさらなる発展が見込まれる大村市ですが、琴海町はちよほどその対岸に位置しています。そのことを説明すると、生徒たちは「琴海と大村を定期船で往復させよう。」「水上バスで無人島ツアーをやらう!」「橋をかけて、お客さんを呼び込もう!」という夢のようなプロジェクトを考えました。生徒たちが思い描く、「琴海の未来」はとても明るいのです。

もちろん夢物語だけではなく、地理で「日本の産業」「過疎・過密」を、「日本の産業」「過疎・過密」を学んでいくとさらにアイデアが現実味を帯び、膨らんでいくかもしれません。歴史でも、長崎市は江戸幕府の直轄地だったのですが、旧琴海町は大村藩の領地だったことを学ばせることで、地域の観光資源・史跡の見直しにつなげていきたいと考えています。現在、担当する一年生の生徒たち「郷土愛」が三年間でどこまで成長を遂げるか、楽しみで仕方ありません。

「私の教育実践」というよりは、生徒たちと夢を語り合っているだけかもしれない。しかし、もしかすると、三十五、四十年後にこの生徒たちが「地域の元気なおじちゃん、おばちゃん」になって琴海町の振興に力を尽くし、奮闘しているのではないかと思うとワクワクします。「この町にずっと住みたい!」「という気持ちも子どもたちに抱かせることも「郷土愛」の一つの形であるといえます。我が国の課題である過疎の進行を食私たちが教師なのかもしれない。

母校だより

日本公認 編

大学院の改組

教職大学院の設置と拡充

長崎大学教育学部長 山路 裕昭



(1) 平成二〇年度の改組

教職大学院の設置

平成十八年七月の中央教育審議会答申において、「教職大学院」制度の創設が提言されました。そして平成二〇年度より実際に教職大学院が設立され、現在では、全国に二十五の教職大学院が設置されています。

長崎大学大学院教育学研究科でも、平成二〇年度から教職大学院として「教職実践専攻」を設置し、その際、従来の修士課程を「教科実践専攻」に改組しました。それから約六年間が経とうとしています。

す。この間、教職実践専攻では、現職教員学生と学部新卒生が、ともに学び、より実践的な能力を身につけた教師として、地域の教育界に船出していきました。

(2) 教職大学院の特徴

高度専門職業人の養成

教職大学院（教職実践専攻）は、高度専門職業人としての教員の養成に特化した大学院であり、大きく次の二つを目的としています。

- ①新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員の養成。
- ②現職教員を対象に、スクールのリーダー（中核的中堅教員）の養成。

このような目的を達成するため、教職大学院の制度においては、専任教員の四割以上を実務経験のある教員にすることや、開設すべき授業科目の領域が定められており、事例研究、授業観察・分析、フィールドワーク等を積極的に導入した指導方法により、理論と実践の融合を図る教育を行うことが求められています。

また、教職大学院（教職実践専攻）の教育課程では、従来からの修士課程（教科実践専攻）と比較して、より多くの単位を修得しなければならぬこと、一〇単位の教育実習が必修となっていることなど（次表参照）が、特徴です。さらに、教科実践専攻では修了条件として修士論文がありました。が、教職大学院（教職実践専攻）では修士論文はありません。ただし、教職実践専攻の修了条件として、修士論文の代わりに、各自が実践研究に関する報告書を作成、発表し、審査に合格しなければなりません。

教育学研究科の修了に必要な単位数

	教職実践専攻 (教職大学院)	教科実践専攻
専攻共通科目	20	6
コース科目	15	
教育実習	10	
コース共通科目・プログラム共通科目・専修免許科目		24
合計	45	30

(3) さらになる改組

教職大学院への一元化

しかし、現在の教育学研究科において、教科教育分野は、二教科（理科・英語）が教職実践専攻に、他の八教科が教科実践専攻にと二分されており、教科教育分野における学生の教育、指導に課題があること、また教職実践専攻に入学した現職教員学生を中心として、教科教育分野の一層の学習を希望する声も聞かれる等、さまざまな課題が明らかになってきました。

また、平成二十四年八月の中央教育審議会答申では、教員養成の修士レベル化等で教職大学院の役割が重視され、教職大学院の一層の機能強化が求められました。そこで、これらの課題を解決するために、教科実践専攻を教職実践専攻に移し、新たな教職大学院に大学院を一元化することにしました（次頁の図参照）。

この改組計画は、平成二十二年から長期間の検討を経てようやくまとまり、来年度（平成二十六年）から新しい教職大学院がスタートすることになりました。

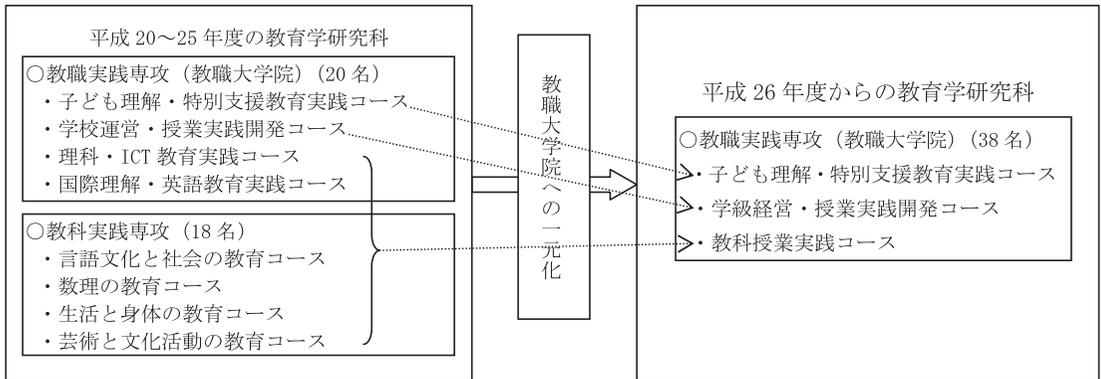
新しい「教職実践専攻」は、「子ども理解・特別支援教育実践コース」「学級経営・授業実践開発

コース」、そして新しく誕生した「教科授業実践コース」から構成されます。教育課程においては、より柔軟な履修を可能とするために必修科目と選択科目の在り方を見直し、また教育実習の制度も手直ししました。授業担当教員の面では、当然のことですが、従来「教科実践専攻」に所属していた多くの教員が新たに加わり、賑やかになります。さらに、研究者教員とのチーム・ティーチングを担う実務家教員も増えます。

現在は、この新しい「教職実践専攻」のスタートに向けて、最後の準備をしています。

しかし、新しい教職大学院は、ようやく形が整った段階であり、中味については、これから実際に運営していく中で、まさに「高度専門職業人としての教員の養成」を実現するものにしていかなければなりません。そのために、今後、さらに地域の学校、教育委員会など、多くの関係の皆様のご協力を賜りながら、教職大学院の充実に向けて努力をしていかなければなりません。

どうぞ、皆様、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



ICTに係わって

芸術表現講座（美術・デザイン）
教授 織田 芳人



教育学部で三十年余りお世話になりました。感謝申し上げます。

赴任した一九八〇年代前半はタイプライターがまだ一般的でしたし、デザインで使う文字は写植か手描きでした。まもなくワープロやパソコンが続々と登場してきました。八〇年代半ば、Macintosh Plusを見る機会がありました。その時はピンと来ませんでした。

八〇年代後半、他大学の先生と翻訳の仕事をするようになった時、フロッピーで原稿のやり取りしようというところで、互いに同じワープロを購入しました。ところが、半年も経たないうちに後継機が出て、機能は上がる、価格は下がる、

という事態に唖然としました。その傾向は現在もあまり変わらないようです。九〇年代前半にはMacintoshを使い始めました。

九八年にいわゆるゼロ免課程ができ、その美術分野にWindowsによるグラフィックの授業が組み込まれました。同じ年の学習指導要領改訂で、デザインに映像メディア表現が含まれましたので、教員養成課程の美術でもWindowsを使う授業を始めました。授業ではWindowsを、研究ではMacを使っていました。ところが、WindowsのバージョンアップやOSのグランドアップに窮するようになり、ゼロ免課程が消滅する前後には、授業と同様に、研究でもほとんどWindowsを使うようになりました。

幸い四月のWindows XPサポート終了前に退職しますので、ICTとの係わりはとりあえず一段落です。大学におけるICTの活用度が年々増加していく中、教育学部が主体的に教育を改革し、ますます発展されていくことを祈念しております。

死の意識と自己肯定感

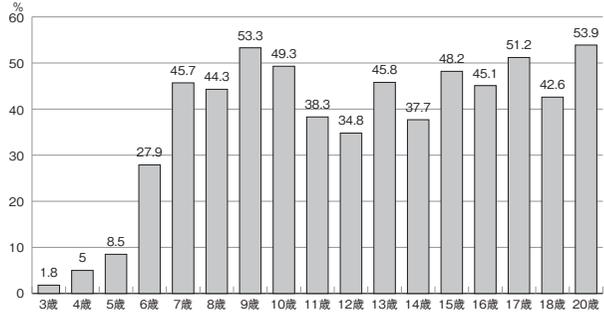
人間発達講座（教育哲学・道徳教育）
教授 上蘭恒太郎



気になっていることを二つ簡単に記しておきます。

一つは、子どもの死の意識です。いじめによる子どもの自死は、一九八五、六年から一〇年おきにピークを示してきました。最近では常態化したとも思います。しかし、二〇一五、六年が気になります。その際、子どもの死の意識は、直線的に発達する、命あるものは死ぬのが常識だ、と硬直した考えでは対応できない点です。

命のないものは死なない、命あるものはいつか死ぬとの死の判断の「常識」型の割合
調査者数3974人



比喩の死を考える、例えば法隆寺を支える木は柱として生き続けると考えられるようになります。すると、木は切られて死ぬと単純には言えず、死の判断が拡散します。二つ目は、自己肯定感です。長崎県の子どもの自己肯定感は低いです。自分を「バカ」と切り捨てる言葉を多く想起します。東京都は二〇〇九年度から不十分なながら取り組んでいます。子どもの自己肯定感を支える努力が学校教育に必要です。これが今日の子どもの課題に対応する方向です。

長いようで短かったなあ

数理情報講座（理科・物理）
教授 古賀 雅夫

長崎大学に赴任したのは昭和五十一年四月。長崎は小学校六年の修学旅行で訪れていた。体調が悪く担任の馬場秀子先生に背負われて長崎国際文化会館を參觀した。当時まだなまなましい資料が展示されており、先生としては是非見たいと思われたのだろう。ただただ感謝の気持ちで一杯である。

さて、平成八年十月教養部から松島晟先生と共に教育学部理科教室に配置換えされ、すぐに二十年勤続表彰。その後、SCS準備のため日帰り東京農工大へ視察。一緒に出張した吉岡さんも大変だったと思う。

何もしなくて結構ですと当時の学部長から甘い言葉をいただいたのだが、現実足時代が許さなかった。尾崎先生、樋口先生、椛島先生が着任され、理科も教育学部研究科のメンバーとなった。二〇〇三年には福山先生、椛島先生、糸山先生、橋本先生、森下先生、古谷先生、近藤先生ら、諸先生と一緒にサイエンスワールド

を始め、今年十一回目を終えた。

この間、理科棟を含め学部の耐震工事が始まり、研究室も移動し、実験室の数は激減した。こんな中、CST（コアサイエンスステイチャー）講座が始まり、いろいろ教材を買ってもらったのは良いが、責任はより以上に大きくなった。

特筆すべきは免許状更新講習が始まったことである。自分に更新講習をする資格があるのか疑問を抱きながらも、現場の先生に元氣になってもらえる内容を用意し、対馬、杵岐、上五島、下五島、佐世保、大村、諫早と出かけ、多くの先生と出合いがあり、笑顔ももらった。また、卒業生との懐かしい再会の場にもなった。以前に比べ教科の単位数が半減し、やや学力に心配が残る教師を送り出さざるを得ない現実をどう打開していったらいいのか、答を見いだせないまま今年度定年退職となった。この十年漢陽大学とのIIST E Pや留学生指導主事として留学生指導に関わらせていただき大変感謝している。またペルーとケニアからの教員研修留学生（国費）を指導する機会を得たのも教育学部へ配置換えあつたればこそである。

「春には笑顔で 卒業」が願い

生活健康講座(保健体育・衛生学公衆衛生学)

教授 菅原 正志



私は、医学部衛生学講座の助手に昭和四十七年四月に採用され、教養部を経て平成九年十月より教育学部保健体育専攻に在籍し、十六年間お世話になりました。当時、教育学部では教育学研究科保健体育専攻の設置を準備されていた時期で、室永教育学部長や横山学長 の要望で分属したわけですが、その研究科も今年度をもって廃止となつてしまします。教育学部で初めてゼミの学生を受け持つ事になりましたが、平成十年頃の自治体の教員採用数は減少し、特に長崎県では小学校を例に挙げると二十名程度であり、学部卒業時の正教員採用数は少なく、国立大学教員養成学部・大学のランキングでは

常に低迷していた時期でした。学生たちの教員採用試験への取り組み意識も低く、その当時の就職対策を学生委員会が担っていました。が、学生の就職活動を活性化させるために就職委員会が設置され、私が初代の委員長となりました。就職活動時期の学生が意欲をなくすことは下級生にも影響があり、就職担当としての様な策があるかを考えていた時、山口耕成教授と現状の打開方法について話した結果、全国の教員就職率上位校の現状を視察することになりました。その結果、対策として教員採用試験対策講座を三年生後期より毎週木・金曜日の六時間目に実施することになりその説明会を開催した所、当時学校教育教員養成課程の学生は百八十名でしたが四十名程の学生が参加してくれました。その後、島原共同研修センターでの合宿研修を追加し、次第に参加学生の数も増え四年後の長崎大学教育学部の教員採用率ランキングは全国第四位にまでになり、大都市圏へ教員となつて行く学生を支援するために、横浜での同窓会も結成しました。「春には笑顔で卒業」が私の強い願いです。

教育学部での二一年を 振り返り、今思うこと

国際文化講座(国語教育専攻)

教授 山本 建雄



平成五年に広島市内の私立の女子大から、教育学部に着任しました。同じ大学でも異なる点が様々あり、最初の数年は勝手が分からず、おろおろする場面も多々ありました。当時は、学部にも、国語専攻にも大勢の教員がおられ、今に比べ幾分か余裕があったお陰で、その都度助けて頂きました。折り返しの十年が過ぎたころから、やっと落ち着いて授業や校務の処理にあたれるようになりました。とはいえ、本来粗雑な人間ですので、廻りの教員の皆さんを、はらはらせることも再々であったことでしょう。特に、勝俣先生には、常にカバーして頂きました。

二一年の間に、教育学部そのものも、取り巻く環境も大いに変化しました。学部、大学院の改組・改革も何度となく取り組まれてきました。学生の教育のことを最優先に、学部の全員が一致協力して難題に立ち向かうことで、短期間に一定の成果を挙げ続けてきたように思います。教員の皆さんの教育に掛ける思いには、わが身を顧みて反省させられることがしばしばでした。

時々、九州地区の国語教育関係者の情報交換会に参加しておりました。長崎大学の教育学部におけるほどの、教育、研究に関わる厳しい状況・環境を耳にすることはありませんでした。こうした中で、どの大学に比べても内容的には決して引けを取らない教育・研究が現に行われて来りました。教員の数や研究費、施設・設備では劣つても、教員と学生の教育・研究に向ける熱意はどこにも負けないと思えました。これこそが、学部の永い歴史と伝統に繋がるものと改めて理解します。

二一年間に、県下各地の学校をお尋ねしました。感想を言えば長崎は教育が支える県、子どもの学びを大人皆が第一に考え、実行している県でした。

おたっぴやだより

老々介護奮闘中

東京都世田谷区 久保田和仁
(昭和四五年卒)



上京して早四十余年、長崎在住期間のほぼ二倍になった。定年退職して六年目の今、結婚以来共働きの私共をずっと支えてくれた妻の母の介護に追われている。父はすでに亡くなったが、母は今も健在である。そんな母に認知症の症状が現れ始めたのが、私が定年退職を控えた年であった。そんなわけで、定年後、いくつかがあった再就職を全て断り、母の介護に専念することにした。

毎日の食事の用意、掃除・洗濯、母のデイケアへの送り迎え等々、妻の退職までの二年間、専業主夫としてがんばった。

あれから六年、今は妻も退職し、二人で協力しながら、母の世話をしている。

年毎にできなくなることが増えていく母ではあるが、穏やかでやさしい所は変わらない。でも時々ではあるが、夜中の看取りの時、部屋の中を徘徊し、あれこれ乱されていくこともある。そんな母をなだめつつ、ベッドで寝かしつけながら、「おやすみなさい!」と声かけすると、「ありがとう。すみません。」と必ず応えてくれる。大変なことでも多々あるが、こんな日常のやりとりが介護する者にとっては、うれしい一瞬である。

私共も年を取り、世間一般で言われる老々介護の状況に突入しつつある。幸いにも、今の日本の介護への対策は相当に進んでいるように思う。これから先も、自宅介護を続けたいと思っているが、きょうる限り、様々な機関や人の手を借りるように努めている。

そんな中で出来る余暇時間で夫婦共にそれぞれの趣味を楽しみ、国内・海外旅行などをしながら、見聞を広めていくような心がけていく。

これまで、平々凡々と生きてきたが、今が一番、大変さを感じながらも充実しているような気がする。

断ち切ろう 「貧困の連鎖」を!

佐世保市横尾町 梶原 孝夫
(昭和三八年卒)



「連立方程式がメツチャ、解つたよ!」これは、去る十月に開講した学習会に参加した中二A子の日誌の一部分である。ここで述べるまでもなく現在、我が国の生活保護受給者は、増加傾向にあり、この要因の一つとして、「貧困の連鎖」がいわれている。学力や学歴の低さが、親の子どもの教育に関する関心のなさが生活保護からの自立を困難にし、保護を受給する「貧困の連鎖」に繋がっていると思われる。また、高校進学率も一般世帯が九八%ぐらいだと言われている中、生活保護世帯では、それよりも約五%から一〇%ぐらい低いことが解っている。全国各地で生活保護受給中である子どもに対する取り組みが始まっており、本市でも今年度四月より開始され、

六ヶ月の準備期間後、十月一日より学習支援が開講した。私は、学習支援員及び家庭教育支援員としてささやかながら活動しているところである。冒頭の文は、支援会に参加しているA子の文である。

毎週火曜の十七時三十分から二時間、大学生ボランティアと共に市内中学生十五、六人に五教科を中心に学習と取り組ませている。最初、遠慮がちで自分から解らないところがあってもそれを聞き出せなかったのに、ボランティア学生の親身な対応により、今では解らないところがあれば、解らない」と言えるほどになってきた。ボランティアとの人間関係も徐々に深まり学習面だけではなく、コミュニケーション能力を高める効果も出てきている。生徒によっては、一週間が待ち遠しいという声を発する者も出てきた。勿論、問題点がないわけではない。市内には、該当する中学生が、遠隔地も含めると百五十名を越すほどだが、その内学習支援を希望しているのは、二十三名にとどまっている。

他にも問題点があるが、問題点を克服しながら、三年後には一般家庭の進学率と肩を並べるか、それ以上になることを目指して微力ながら手助けすることに全力投球をしている昨今である。

こいつあ春から!

長崎市平戸小屋町 中村 紘子

(昭和四十一年卒)



まあまあ、元旦早々:

年賀状が来ているとわくわくして下りたマンションの入り口ポスト前に、お猫様の物らしき十二、十五センチの円形の物体発見。しかも、平らに広がった真ん中に山茶花の花びらが載っている。

鼻への刺激はないが、見た目はお正月にふさわしくない。周囲には、山茶花だけでなく何やら大きな枯葉も存在を主張している。

早速、管理員の掃除用具を拝借。例の物体の上を箒が通ると、真ん中はタイルの色を見せたが、周りの色はあまり変わらない。

赤ちゃんを抱っこした里帰りの人がお出かけ。「明けまして。」

高圧洗浄機を持ち出すほどでもない。高圧洗浄機を探すが、心

当たりの場所には見つからない。仕方なくじょうろで水をかけながら箒でこする。そのうちに、タイルの目地がレモン色になった。バケツで水を流す。

やがて、すべてのタイルも目地も元の色に戻った。しかし、濡れたタイルがキラキラして、「滑るぞう。」と、歌っている。

雨の時にエレベーターに敷くマット置き場から古いバスタオルを持ち出し、塵ばさみで引きずって水を染ませる。

四階の住人が、年賀状を取りに来て聞くので、猫の:と、言いかけると、「そげんことせんちゃ水ば流しとけば。」と、笑う。「水を流したから拭いているのですよ。」と、私。「そげんよか着物ば着とってせんちゃ。」と、呆れられながら、いつの間にか定期総会の内容について話し合っている。

その後も、出入りの際に挨拶を交わした人は、二十一名に及んだ。およそ六十余名の小さなマンションだが、元日にこれだけの人たちと年賀の挨拶ができたのは、お猫様のおかげか。

この日の運勢、「一年の計は何とやら。元気におめでとを。」と大当たり!

よき上司・先輩・友人に恵まれて

情報文化教育課程

吉村 寿美

(平成二十三年卒)



平成二十三年三月に卒業して、

およそ三年の月日が流れようとしています。今回このような場に、私のようなものが執筆してよいのかと依頼を受けた際に思いましたが、筆を走らせている今でも思っているところです。長崎大学教育学部情報文化教育課程情報メディアアコースを卒業した私は現在、長崎市内の企業で営業部署の事務担当として仕事をしています。官公庁との取引が主である会社で、入札によって仕事を頂く事が大半を占めます。営業担当の方は入札に行かれたり、官公庁の方々に提案営業を行ったりしていますが、私はその際に使用する入札書の作成や、落札した場合には契約書類の作成、さらに納期を迎える案件に

ついては、納品書類や請求書の作成をおこなっています。毎日パソコンを扱っているため、大学時代に教わった事は無駄ではなかったなど日々思っています。上司や先輩にも恵まれ、とても充実した日々を過ごしています。ただ、活躍という活躍をしていないのが現状で、むしろ足を引っ張っているのではないかと日々反省しています。

大学時代の同級生とは、お酒を飲んだり、集まる機会を設け、定期的にお互いの近況を報告し合ったりしていました。ただ、最近はなかなか仕事の時間が合わなかったり、生活環境が変わったりし、卒業したての頃より集まれる回数が少なくなっているのが現状です。これから、さらに集まれる機会が少なくなってくるとは思いますが、いくつ歳を重ねてもお互いに何でも話せる良い関係を築いていければと思っています。大学に進学したことを後悔した時もありましたが、そのような考えを払拭してくれたのはいつもそばにいてくれた友人たちでした。これを読まれるのは少し恥ずかしいですが、この場を借りてお礼をさせていただきます。「ありがとう。そして、これからもうよろしくお願いします!」

動いています同窓会

本年度も、「会員の親睦を図り、併せて教育の振興に寄与する」ことを目的に、年度当初の計画にしたがい諸事業を展開してきました。「動いています同窓会」の取り組みの状況について、報告いたします。ただし、会報（一三一号・一三二号）でお知らせしている事業は省略させていただきます。会員の皆様の御協力に感謝いたします。

●臨時理事会・評議委員会

公益法人の見直しに伴う作業を進めるため、臨時に理事会と評議委員会を二回実施しました。

- 第一回臨時理事会
- ・日時 七月三十日
 - ・出席者 宮地・山崎・渡邊・木村・西平・峰松の各理事、事務局から小川会長・濱崎事務局長
 - ・内容 現行定款の一部変更について、見直し作業について

第二回臨時理事会・評議委員会

- ・日時 八月二十五日
- ・出席者 理事（十二名） 評議員（七名） 監事（二名） 税理士（一名） 事務局（二名）
- ・内容 ①法人移行許可申請に

●教育・研修部

本年度も、二五年度の教育学部の学生（準会員）に対する就職支援事業を実施しました。教育・研修部の山田・宮地・木村・仲・野田・上野の各部員でお世話をしました。

計画にしたがい、五月中旬から九月中旬まで、アドバイザー事業を行いました。受験生に対する心構えや面接に向けての心構え等、受験対策について支援活動を行いました。

次に、一次合格者を対象とした支援活動を実施しました。七月中旬から九月上旬の約八週間行いました。まず、関東・関西地区受験者を対象に、次に長崎県・九州地区受験者を対象に行いました。内容として、面接の受け方や小論文の書き方・模擬授業等について

て支援活動を行いました。

●広報部

- 第一回広報部会
- ・日時 五月一日
 - ・出席者 山崎・大隈・中島・渡辺・原の各広報部員、事務局から小川会長・濱崎事務局長・担当の尾崎
 - ・内容 二五年度の会報「たまごの」の編集方針及び作成計画、会報「たまごの」(一三一号)の編集計画や作業日程について
- 第二回広報部会
- ・日時 九月三日
 - ・内容 広報部員による一次校正を行う
- 第三回広報部会
- ・日時 九月二六日
 - ・内容 全会員宛、会報発送
- 第四回広報部会
- ・日時 十月二二日
 - ・内容 会報「たまごの」(一三二号)の作成日程、内容構成、主題、そして執筆者について検討
- 第五回広報部会
- ・日時 一月二八日
 - ・内容 広報部員による一次校正を行う
- 第六回広報委員会
- ・日時 二月一八日
 - ・内容 会報発送・本年度の反

省会

関係の支部長さんをはじめ、執筆いただきました会員の皆様には、心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

●図書選定委員会

- ・日時 六月一日
- ・出席者 山崎・渡邊・峰松の各選定委員、事務局より小川会長・濱崎事務局長・担当の尾崎・庶務担当の野中
- ・内容 平成二五年度の図書購入費助成に関する助成校の選定

●ともに 終身会員として

今年三月、輝かしい業績を残し、同僚の方々や保護者・地域の方々、に惜しまれながら、教育界に一応の区切りをなさる会員の皆様、本当に御苦労様でした。本同窓会では、退職後も終身会員として、終身にわたり、本会の進展に寄与していただけたらと願っています。

つきましては、御希望の方は、入会の手続きをよろしく願っています。

- (1)入会費 五〇〇〇円（終身にわたって、会報を送付します）
- (2)振込用紙 事務局へ連絡してください。

地域の子どもは地域で育てる

一球入魂

桜が丘ソフトボールクラブ

部長 木村 大輔

桜が丘ソフトは現在、六年生八名、五年生三名、四年生三名、三年生四名、二年生一名の合計十九名で活動をしています。練習日は火曜日、木曜日、土曜日で日曜日は試合が入ることが多いです。

今年度の成績は公式戦、十二月二十三日現在で六五勝十六敗二分、優勝回数九回です。夏休みには福岡県で開催される九州大会にも出場することができました。

桜が丘ソフトはソフトボールの技術を高めることだけではなく、礼儀作法を重んじ、特に挨拶の励行を基本としています。桜が丘ソフトは同学年の仲間たちはもちろん、低学年から高学年までとても仲が良く、高学年の子供たちが低学年の子供たちの良いお手本となっています。

また、ソフトボールの練習や試合の他にも季節ごとにレクリエーションもあり、チーム内の絆を深めています。

低学年の子供たちはスローピッチ（ピッチャーが下投げで投げ

る）での試合もあり、初心者でも楽しみながらルールを覚えることができます。もちろん、女の子でも大丈夫です。最近では、女子のソフトボール選手も増えてきており、桜が丘ソフトの卒業生にはホームランバッターとして活躍していた女子もいます。

見学、体験入部も大歓迎です。ソフトボールや野球が好きなお子、興味がある子はぜひ一度グラウンドに遊びに来てください。元気いっぱいの子供たち、優しい監督・コーチが待っています!!



地域の愛に育てられる

上田ノ浦子供会

会長 泉田 直機

旧長崎街道の玄関口にある長崎市立矢上小学校には、十二地区の地区PTAと子供会があります。

私たち上田ノ浦子供会は、その一つで、旧長崎街道の要所、番所橋から中尾川を遡って中尾ダムの下までの地域で活動しています。上田ノ浦は、赤松、箆という二つの自治会があり、優しい心で私たちの活動をサポートして頂いています。近年、長崎市のベッドタウンとして人口も増え、地元の方と新たにこの土地に越してこられた方が半数ずつになっていますが、上田ノ浦子供会の加入率は九〇%を越え、平成二十六年度には、一〇〇%になります。その理由は、子供会に対する自治会の方々の寄付や助成金、優しい心配りに対する我々親としての感謝の心です。

年間を通して、「鬼火だき」「お別れ会歓迎会」「矢次郎神社夏祭」「ラジオ体操」「廃品回収」「もちつき大会」「クリスマス会」など、全ての行事が、子供会だけでなく、

地域の方々が一緒に参加頂いて、御指導を頂きながら行われていきます。子供たちの健全育成を親身になって一緒に考えて頂き、「一人の為にこの地で生きる」ことの大切さを教えて下さい。子供会の活動費にとゴミステーションに捨てられた廃品を毎回集めて下さる方、毎朝公園を清掃して下さいの方、行事の度つくられた野菜や、まだ使用してない日用品を提供して下さいの方、私たち親も、常に感謝の気持ちを持ち、無理なく一生懸命に子供会活動に取り組める環境をつくって下さい。その代表例が四年に一度、地域の皆様方に感謝の意味を込めて開催する、子供会主催の上田ノ浦大運動会です。

幼児から老人まで地域の皆様笑顔で楽しむ運動会。締めくくりは、地域の皆様から提供頂いた野菜、寄付金を頂いたお金でいろんな商品が当たる抽選会で幕を閉じます。終わった後の皆様の笑顔で、「この地域に住んでよかった」という思いがあります。

私たちの上田ノ浦子供会は、「地域の愛に育てられる子供会」なのです。

地区懇話会

長崎支部(東部) 地区懇話会の概要

事務局長

瀨崎 嘉一郎

崎市筑後町四一〇

3・会費 一人六〇〇円(同窓会本部より一人三〇〇円補助)

4・参加者 三〇名

内訳 現職会員一六名・OB(終身会員)六名

大学二名(山路裕昭

学部長・藤木卓 副学

部長) 同窓会理事二名・同窓会事務局四名

5・内容

① 教育学部の現状について(山路裕昭 学部長より)

② 現職の先生による発表・学校経営の危機管理について(矢上小学校校長 嘉松弘一郎先生)

③ 誠実で自立した生徒の育成について(片淵中学校 教頭 福浦豊治先生)

④ 協議並びに意見交換 別会場にて 一七〇〇〇〜一九〇〇〇

7・東部地区学校への案内校数 小学校一五校 中学校一校

8・本懇話会は、上五島地区を皮切りに長崎地区(東部)で九回目になり、二六年度も長崎地区で開催の予定です。

地区懇話会に

参加して

長崎市立戸石小学校長

西村 敏彦



私は、初めてこの会に参加し、長い歴史を誇る「長崎大学玉園同窓会」が、このような形で毎年各地をまわり実施されていることを知り、また、久しぶりに諸先輩方のご尊顔を拝見することができ大変嬉しく思っています。

懇話会では、最初に、長崎大学教育学部の山路学部長先生から、教育学部の現状についての話があり、長崎県の教員採用が少ない中で苦労されている様子がよくわかりました。学生たちが将来への夢や希望を抱けるような教育学部であり続けてほしいと、切に願っています。

次に、嘉松校長先生が、前年度

の失敗事例をしっかりと分析し、「違える教育から揃える教育へ」「学年主任を育てる」という視点で「三賢交代活動プラン」や「イチロク・パートナープラン」について、熱く語ってくださいました。それから、福浦教頭先生が、「誠実で自立した生徒の育成」という学校教育目標の具現化を目指し、特に、地域との連携を通して、生徒に「自信と意欲の喚起」や「社会とのつながりの認識」をもたせる取り組みについて、熱く語ってくださいました。

二人の先生方の子どもたちを思う気持ち、学校を思う気持ちがひしひしと伝わってくる大変素晴らしい話をお聞きすることができました。

最後の懇親会では、和気あいあいの雰囲気の中で、諸先輩方から現職のときの実践や将来の夢などを聞かせていただき、大変勉強になりました。

これからも参加できる機会があれば、是非参加し、「長崎大学玉園同窓会」を盛り上げていければと思っています。

次に、嘉松校長先生が、前年度



図書購入費助成の募集

特例社団法人長崎大学玉園会同窓会は、長崎県内をはじめとする教育振興に寄与することを目的として活動を行っています。

そこで、その目的を達成するための事業として、「長崎県公立の小学校・中学校、高等学校・特別支援学校、私立の小学校・中学校・高等学校」を対象に、図書購入費の助成を行っています。本年度も下記の要領で募集を行う予定です。

- 1 助成校 小学校 9校
中学校 6校
高校 3校
特別支援学校 3校
- 2 助成金額 1校につき10万円程度
- 3 募集期間 平成26年3月3日(月)～5月30日(金)
- 4 応募先 長崎大学玉園同窓会
〒850-0029 長崎市八百屋町36番地
(長崎県教育会館内)
電話 095-824-5494
- 5 応募手続き ①応募希望の学校は、電話で、長崎大学玉園同窓会へ連絡する
②応募した学校へ「募集要項」を送付する
③学校は、希望図書名・出版社名・冊数等を記入して応募する
④選考後決定通知を応募した学校に通知する

お礼状

暑い日が続いていますがお元氣ですか。

玉園同窓会様から頂いた本を、「玉ちゃん文庫」と称し、全学年に読んでもらおうと、工夫しております。低学年はたくさんズロリシリーズを見て、とても喜んで貸っていました。

私は、俳句の学校を気に入りました。今度、シリーズを通して、読みたいと思います。この機会を逃さずみんなに読んでもらえるよう、頑張っていきたいと思っています。これからも、お体に気をつけて下さい。

私達も、勉強、スポーツ、文武両道、頑張ります。

聖マリア学院小学校六年
平田 俊輔



一事一務一局より

お知らせ

「長崎大学全学同窓会開催される」長崎大学ホームカミングデー」前号でお知らせしましたように、「長崎大学全学同窓会」(第五回長崎大学ホームカミングデー)が、平成二五年十一月二三日(土)、長崎大学文教キャンパスにおいて開催されました。

各学部から、多くの会員の方の参加がありました。我が玉園同窓会からは、五十名の参加がありました。

今回も、後輩たちの活気に満たされたアトラクション、元プロ野球選手で元楽天の監督「田尾安志」氏による講演、そして懇親会と、青春時代を謳歌した母校に集い、旧友との再会を喜び合い、さらに絆を深めた一日となりました。

